

## 大都市近郊都市の緑化計画に関する一考察

### 〈日進市の緑化計画〉

正会員 櫛田祐次

#### 1. はじめに

日進市の緑化計画の推進は、大都市近郊都市の常で人口流に伴う都市化の進展は避けられない。とすると今後いかに都市化に対処し、緑化を推進すべきかを検討したい。

#### 2. 日進市の位置と変遷の概要

日進市は、濃尾平野の中核都市名古屋市の東方展開する、尾張丘陵地に位置し、市の東には豊田市、三好町、南に東郷町、北には長久手町と隣接、東西 8.9km、南北 6.8km、総面積 33.9km<sup>2</sup>、を占める地方小都市である。その発生から今日までの変遷の概略は、1300年頃に集落の形成がなされ、その後統合整備がなされて、1906年には日進村として統一、ほぼ現在の姿となり、1958年には町制が布かれ、1996年には日進市の誕生今日に至る。

#### 3. 日進市の現状

##### 1) 日進市の人口変動を年次別にみれば

1980年 41,024人    1985年 44,802人    1990年 50,335人    1995年 60,311人    1998年 63,939人  
1999年 66,597人 (12月1日現在)

人口変動は右上がりの年々増加傾向にあり、この傾向は更に加速されると予想される。

##### 2) 地域間の関連

a. 就業者    1990年 24,544人                      1995年 30,811人  
b. 日進市        9,668人    (31.37%)                      通勤転出 21,143人    (68.62%)  
c. 通勤転出先    (1995年の国勢調査によれば、日進市より通勤先は、)  
    名古屋市    14,808人    (70.00%)    豊田市 1,476人    ( 6.98)    長久手町 865人    ( 4.09)  
    東郷町        790人    ( 3.74)    三好町 626人    ( 2.96)    計            18,565人    (87.80)  
    その他地域    2,578人    (12.19)

日進市在住の就業者内、市内通勤者は約31.4%、市外通勤者68.6%を示し、更に、市外通勤者の70.0%が名古屋市となり、周辺都市の内名古屋市との結びつきは大変強いといえる。この傾向は、人口の流入状況から更に強まると考えられる。

#### 3. 日進市の植生概要

日進市の植生を気候的区分からみれば暖帯に帰属している。しかし、地理的要因からみると、暖地系植生と寒地系植生が混在していると考えられるが、自生している植生からみれば、暖地系植生が優位で寒地系植生は極めて少ない。これは気候的条件から当然ともいえる。自然林は極めて限られ、殆ど植林による人工林である。

植生を樹木に限り観れば暖地系樹木は、下記に示す多種のものがみられるが、寒地系樹木は極めてわずかなである。

#### 4. 日進市の地域別土壌と植生

日進市の土壌と植生について5つの地域に区分して見れば

##### 1) 東部地区 (三本木、米野木、岩藤新田、藤島一部)

五色園から三ヶ峯一帯は、砂礫層の痩せ地で地表は、大小のチャートが点在し植物の成長には、良い条件とはいえない。しかし、場所によつては松類が丘陵地の植生を形成している。市総合運動公園周辺は比較的土壌が良く、植生の良好な生育がみられる。三本木周辺も良好な土壌で良好な植生がみられる。岩崎川上流沖積土壌では、水辺の植生が見られる。天白川上流には護岸工事の状況からか目立つた樹木はみられ

ないが、米野木付近で低灌木が認められる。

## 2) 北部地区（北新田、岩崎）

この地区の土壌は植物育成に好条件で植生の生育の良さ示している。高木と雑木林と植生は多彩である。御嶽山は植生土壌としては良好とはいえないが、植林された樹木が多少の違差があるが、全体的には高木に生育している。保護育成の結果多彩で良好な植生状況を示している。弁天池周辺も良好で多彩な植生状況を示している。

## 3) 中央地区（藤島、本郷、蟹甲、野方）

白山宮で象徴される鎮守の森で、その保護に努められ結果、最も古い自然林が残存している。周辺は、丘陵地帯と同様な植生を呈している。

## 4) 西部地区（梅森、浅田、赤池）

丘陵地は良好な土壌とはいいがたい状況で、平地は、水田畑の耕作地が大部分、住宅周辺では庭木・生垣等の植生が認められる。

## 5) 南部地区（藤枝、折戸、南ヶ丘）

地域全体土壌の状態が一樣でなくムラが認められる。土壌条件が良好な場所での植生は良好な状況を示している。

主な植生を暖地系樹木と寒地系樹木に区分してみると

### 暖地系樹木

常緑樹 ヤマモモ、アラカシ、シラカシ、ヤブツバキ、ニッケイ、サカキ、ネズミモチ、モッコク、ユズリハ、クスノキ、カクレミノ、クロガネモチ、ソヨゴ、ヒサカキ、ヒイラギ、ヤツデ、マンリョウ、アセビ、シャシャンボ、等

落葉樹 ネムノキ、アベマキ、エノキ、ムクノキ、アカメガシワ、クサギ、ヤマザクラ、ウメモドキ、コバノガマズミ、モチツツジ、等

寒地系樹木 オニグルミ、モンゴリナラ、等

## 5. 日進市の地勢・気候

地勢概略は東高西低で、北部から南部に小高い丘が連なる丘陵地で、最高部は東部の三ヶ峰付近、最低部は赤池付近となる。市中央部は、周辺の丘陵地より降雨が流入し、天白川、岩崎川となりこの河川を中心に発達した洪積低地を形成する。

この地域の気候概略は、夏期は高温多湿、冬期は”伊吹おろし”と呼ばれる北西の風が強く底冷えのする日が多い。

年間平均温度 15.3度      年間平均降雨量 1113.8mm      年間平均湿度 70%

## 6. 日進市の緑化について

日進市の緑化について考察すると、周辺の丘陵地に緑豊かな植生を望むのは、植生に対する土壌が不適當で先ず、土壌改良を行い、更に維持管理に多大の努力が必要となる。よって丘陵地の緑化は無理と判断し、丘陵地は現状維持とし、その対象を岩崎川、天白川を中心の平坦地・休耕地地帯を対象に公園設備を付帯せず、自然林に近い状態の植生集落を形成し、集中降雨による流水調節と、地域のヒート現象の軽減を計り、災害時の避難場所の確保を計る。更には将来食糧事情の必要から再度農地への変換も可能性を保持できると考えられる。

### 参考文献

|          |        |
|----------|--------|
| 都市機能現況報告 | 日進市    |
| 緑の基本計画   | 日進市    |
| 日進町の植物   | 愛知県日進町 |